

## 平成 22 年度 全国学力・学習状況調査の調査結果について

4月20日に実施しました全国学力・学習状況調査の調査結果が届きましたので、本校における結果についてお知らせします。今回の結果から児童の学力や学習状況の傾向を分析し、今後の指導に役立てていきたいと思っております。

### 1 調査のねらい

この調査は、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、改善を図ることをねらいとして実施されました。

### 2 調査対象学年と教科

6年生を対象に、国語・算数についての5年生までの定着状況の調査と、生活と学習に対する意識調査が行われました。

### 3 調査結果

本校6年生児童の学力、学習状況調査の結果については次頁の通りです。

### 4 今後の取り組みについて

#### 【国語】

分かりやすく伝えるために結論から話す、情報を順序よく整理して書くなど、ことばの力を育てる指導をするとともに、各教科の学習の基盤としての言語の指導を行います。また、習得した漢字を文の中で適切に使うことができるよう、あらゆる場面で日常的に指導していきます。さらに読書活動を充実させ、内容を要約したり自分の体験と関係づけたりするとともに、文章全体の構成や展開にも着目できるよう指導していきます。

#### 【算数】

5・6年生の授業では、年間を通して少人数学習や習熟度別学習により基礎学力の向上を図っていきます。また、「数と計算」は低学年からの積み上げが大切であることから、引き続き、1年～4年の帯タイムの指導を充実させていきます。さらに、教材や発問の工夫をしながら、児童の考えを引き出し活かす授業や、筋道立てて考えていく力を育てる授業を積み重ねていきます。

#### 【生活・学習習慣など】

年3回行っている「いきいき生活調べ」で、自分の生活習慣を見直したり、健康安全指導や保健学習で「早寝・早起き・朝ご飯」の大切さを指導したりすることで健康的な生活を送る実践力を身につけていきたいと考えています。また、学年相応の家庭学習を出すことで、基礎学力の定着と自主的な学習習慣を身につけさせることも継続していきます。

今後も保護者の皆様には、児童が自分に自信をもち、何事にも意欲的に取り組んでいくことができるように言葉がけをよろしくお願いいたします。

# 平成22年度 全国学力・学習状況調査の結果概要

## 広島市立千田小学校

### 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### 2 調査の実施日 平成22年4月20日(火)

### 3 調査方式

抽出調査・・・文部科学省が調査対象として抽出した学校において、調査を実施する。

希望利用による調査・・・文部科学省より問題等の提供を受け、各学校において、調査を実施する。

### 4 調査実施学校数(公立学校)等

区分	抽出調査実施校数(校)		調査実施者数(人)		
	国	県	国	県	学校
小学校第6学年	5,372	137	264,193	6,276	96
中学校第3学年	4,347	121	421,281	11,297	-

### 5 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

##### 主として知識に関する問題〔A問題〕

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容  
実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

##### 主として活用に関する問題〔B問題〕

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力  
様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

#### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

##### 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

##### 学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等5に関する調査

### 6 各教科の平均正答率

#### 【小学校】

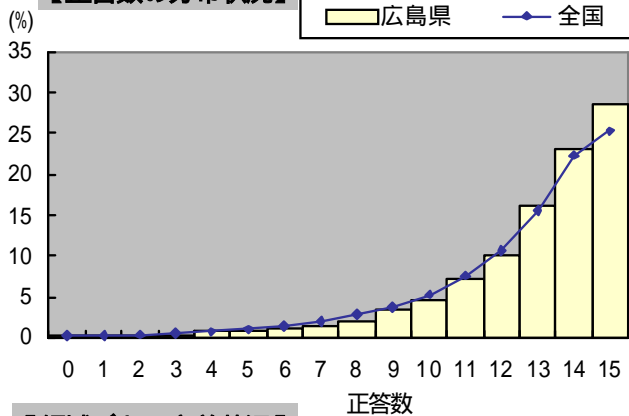
国語						算数					
A問題			B問題			A問題			B問題		
国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校
83.3	85.3	<b>85.1</b>	77.8	81.1	<b>85.3</b>	74.2	77.3	<b>83.2</b>	49.3	51.9	<b>57.1</b>

#### 【中学校】

国語						数学					
A問題			B問題			A問題			B問題		
国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校	国	県	学校
75.1	76.0	-	65.3	65.7	-	64.6	64.9	-	43.3	43.3	-

## 国語A

### 【正答数の分布状況】



### 【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	83.2	86.7	<b>89.6</b>
書くこと	67.7	70.4	<b>75.0</b>
読むこと	74.1	76.5	<b>77.6</b>
言語事項	85.8	87.5	<b>86.5</b>

### 【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	80.8	82.7	<b>83.1</b>
短答式	84.6	86.6	<b>86.0</b>
記述式	-	-	-

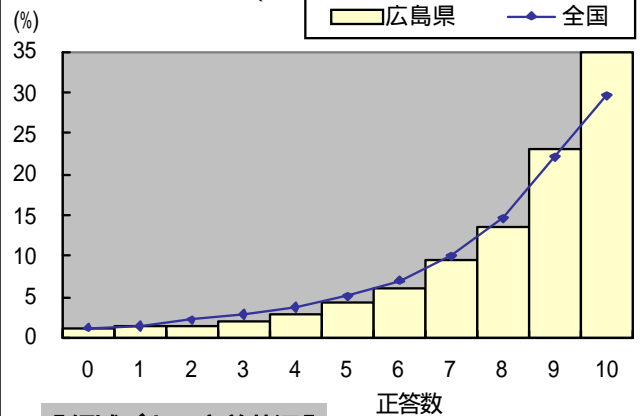
### 定着状況

文を読み、考えたことを理由を明確にして書く問題の正答率が高い。新聞記事を読んで感想をまとめたり、ワークシートに考えを書き込んだりする取り組みを続けてきたことで、書く力は徐々に上がってきている。

説明的な文章の内容を読み取ったり、物語の内容をつかんだりする問題は、正答の児童が多い。

## 国語B

(正答数)



### 【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
話すこと・聞くこと	75.4	79.3	<b>83.6</b>
書くこと	91.6	93.2	<b>95.3</b>
読むこと	73.4	76.9	<b>82.0</b>
言語事項	73.0	75.6	<b>83.3</b>

### 【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	75.3	78.3	<b>81.8</b>
短答式	91.6	93.2	<b>95.3</b>
記述式	73.5	77.9	<b>83.9</b>

### 課題

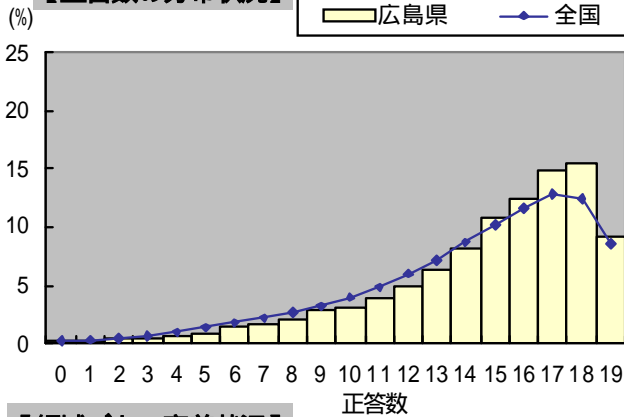
漢字を正しく書く問題は、県平均と比べて正答率が低い。習得した漢字を文の中で適切に使うことができるよう、日常的に評価していかなければならない。

物語を読んで全体の構成を短い文でまとめる問題は、作者や読者の視点から物語をとらえることが難しい児童が多く、正答率が低い。

【小学校算数】

算数A

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と計算	74.1	75.8	<b>81.9</b>
量と測定	74.1	77.9	<b>83.8</b>
図形	83.1	85.6	<b>88.5</b>
数量関係	65.7	71.8	<b>80.2</b>

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	76.5	79.3	<b>84.5</b>
短答式	72.8	76.1	<b>82.4</b>
記述式	-	-	-

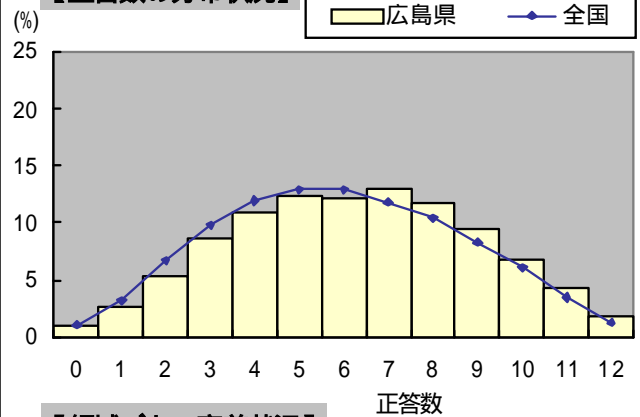
定着状況

「数と計算」領域の整数及び小数の四則計算は、正答率が高く、帯タイムで計画的に計算力向上に取り組んだ成果が表れている。

「量と測定」領域では、操作活動を効果的に授業に取り入れることで、面積や角度を正しく求める力は、ついてきている。

算数B

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
数と計算	55.8	57.0	<b>61.5</b>
量と測定	33.3	39.4	<b>39.6</b>
図形	42.0	46.0	<b>52.7</b>
数量関係	54.3	56.0	<b>60.1</b>

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	県	学校
選択式	59.1	61.2	<b>67.3</b>
短答式	69.0	70.6	<b>73.4</b>
記述式	31.6	35.2	<b>40.4</b>

課題

理由や説明を記述する問題は、県平均は上回っているものの正答率が低い。必要なことを分かりやすく力を育てていかなければならない。

文章題を正しく読み取り立式する設問での間違いが多い。図や表などを使って見通しを立てる方法を継続的に指導していく必要がある。